

日 時：平成26年10月11日（土）9：00～9：30

場 所：瑞穂区船原町7丁目 観音堂前

【昭和区の歴史文化を守る会について】

地域のお地藏さんの道標が半分土に埋まっているのを有志の皆で保全し、拓本取りをして、色々なことを調べたことがきっかけで、平成25年6月に発足した車椅子でも参加できる歴史散策ウォーキングチームです。郷土の歴史を学び、誇りと愛着を持つことが地域のまちづくりの第一歩であるとの思いから活動をしています。

昨年度は、まちづくり活動助成を受けて時代とともに姿を消した「地藏盆祭り」を60年ぶりに復活させ、子どもたちにお地藏さんの存在を知ってもらうことによって地域で大切に守り続けるきっかけづくりからはじめました。

今年度も、引き続き地藏盆祭りを開催し、併せて古くからある街道「みや道」の周知をはかるため、道沿いに道標を設置するなど、地域の歴史と文化を次世代に繋ぐ取組みに力を入れています。

【活動の様子】

■ 道標落成式

瑞穂区船原町7丁目の観音堂前、旧道と旧道が交った要所であるこの場所に、みや道で初となる道標が立てられました。地下鉄瑞穂区役所駅の3番出入口を出て、西北方面へ向かって伸びる細い旧道を進んでいくとみや道に辿りつき、道標の背中側が目に入ります。

この落成式は、地域の祭りの日程にあわせて行われました。地域の方々も集まって賑わうなか、落成式が始まりました。初めに地域の代表者による挨拶があり、続いて、名古屋都市センターと「昭和区の歴史文化を守る会」の代表がそれぞれ挨拶をしました。

挨拶のあと、その場にいる全員で道標の除幕を行いました。



巻かれていた白布を交代で巻きとっていき、だんだんと道標が姿を現していく光景はとてもわくわくするものでした。道標は花崗岩を使用しており、つやつやと輝く立派な仕上がりで、その全貌が現れた瞬間に、集まった人々は喜びの声を上げていました。

古の街道を道行く人々に示すことで、まちの史跡を知ってもらいまちの歴史への関心と愛着がもたらされることと思います。



【道標】



南面



西・北面



東面



～ミルクの感想～

このみや道は、南は熱田神宮、北は桜山、川名につながる由緒ある街道であるとのこと。歴史を感じる路地、建物、石積が多く残るこの界隈でこの道標が「みや道」の歴史を多くの人に伝え残すことでしょう。目を閉じていにしえの人々の行き交う姿を思い浮かべると、つかの間ではありますが、せわしい現代を忘れて心が落ち着きます。

とても暖かい秋の一日に、この道標のはじまりを一緒に祝うことができたことを嬉しく思います。



～くーちゃんの感想～

気持ちの良い秋晴れの日で、白い布に覆われた道標が朝の光に照らされて立っているのを見た時には、とても気持ちが高まりました。歴史ある土地に立派な道標が立って喜ばしく思います。長い間、大切にされていくことを願っています。